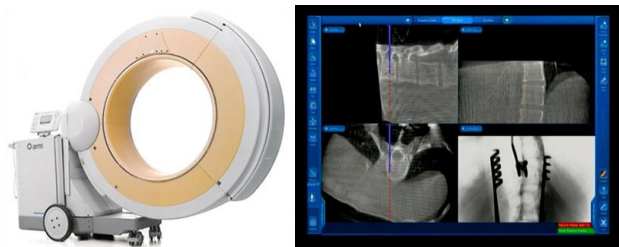


脊椎グループ O-armを用いた脊椎手術



O-armを用いた経皮的椎弓根スクリュー挿入（転移性脊椎腫瘍）



頸椎後弯矯正術（頸椎症性脊髄症：術前、術後1年）



O-armとは、可動式のレントゲン、術中CTを撮像できる機械です。O-armのCT画像は、0.0数mmの誤差と高性能であり、安定した成績を残せます。3D画像をもとにしたナビゲーションシステムにより椎体を3方向からリアルタイムにモニタリングでき、安全で確実な低侵襲性脊椎手術が可能となりました。これとナビゲーションシステムを併用することで、手術中に撮像した画像をもとに精度の高い手術を行うことができます。

側弯症や頭蓋頸椎再建手術は、椎弓根スクリュー刺入の難易度が高い手術であり、治療可能な施設は国内でも限定されています。

わたくしたちは、O-armを用いた椎弓根スクリュー固定や解剖学的研究によって手術のリスクを軽減し、安全かつ確実な手術の確立を目指しています。また経皮的椎弓根スクリューにもO-armを用いて行っており、最先端の治療として注目されています。

骨軟部腫瘍グループ 悪性骨腫瘍

悪性骨腫瘍；骨肉腫、Ewing肉腫、軟骨肉腫など
一般に骨肉腫やEwing肉腫では術前・術後の化学療法が必須です。それに手術を組み合わせる事で適切な治療となります。年齢によっては、小児科と共同して治療に当たります。

大腿骨骨肉腫（左）に対して、術前化学療法を施行し、広範切除と人工関節置換を施行した（右）

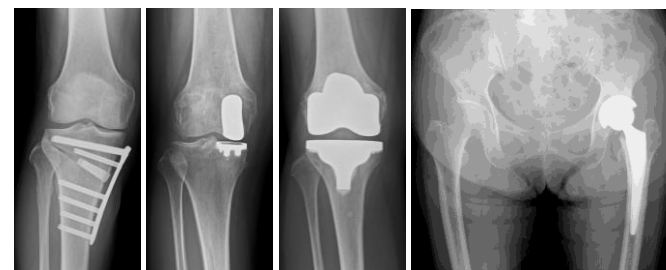


股関節・膝関節グループ 人工関節置換術

膝関節：関節温存手術から人工膝関節まで幅広く対応しています。

股関節：手術の大半を占める人工股関節は低侵襲で脱臼リスクの少ない前外側アプローチで行っております。

➤ロボット支援手術を導入しており、より安全に正確に人工関節手術を行うことが可能です。



足の外科グループ 外反母趾、変形性足関節症



外反母趾は保存治療を行い改善が乏しければ手術を選択します。当院では外反母趾の重症度に応じて術式を選択しています。

変形性足関節症に対し、靭帯修復術や骨切りなどの関節温存手術から関節固定術、人工足関節置換術まで患者様の病状に応じて適切な治療を選択しています。

また、距骨や周囲の関節の状態に応じて、患者様のCTデータからカスタムメイドされた人工距骨を用いた人工足関節置換術も行っております。

上記のような変性疾患から足関節外側靭帯損傷、アキレス腱断裂などのスポーツ障害まで幅広く診療を行っております。